

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-3



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク(国内版) 沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース(仮想)1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ(4日間で120km)を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、5km程度の散歩まで回復しましたが、完治はしていません。例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明が、このバーチャルウォークの目標でした。最後まで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**(ウォーキングの隠語で交通機関を利用)聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。

2020年7月24日の開会式までは2018年12月1日から約20ヶ月あります。毎月84km(4.2km×20日)を歩けば、届けられる範囲です。一緒に歩く方はいませんか? 歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れた通過の県の思い出や映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナとどんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年10月1日沖縄県最北端の辺戸岬を出発した聖火は沖縄本島を縦断、那覇市に到着後、空輸で10月28日鹿児島県入り、鹿児島市内から国道10号線を進み、国分市から11月20日宮崎県都城市に入りました。

[宮崎県都城市～宮崎県宮崎市] 201km～300km



都城市は鹿児島県との境にあり農業・農産品加工業が盛んで人口は宮崎市に次ぎます。かつては薩摩藩領であったことから、今でも薩摩の文化が色濃く残っているとのこと。写真上左は都城駅、右は宮崎市内です。太陽がふり注ぐ、南国ムードがいっぱいです。「宮崎を どげんか せんといかん」と知事選に立候補して第 17 代宮崎県知事に当選した東国原英夫(ビートたけしの一番弟子で芸名 そのまんま東)は都城市出身です。4年の任期を務め、国政に乗り出しましたが、衆議院議員(日本維新の会 比例区)を1年で辞職、現在はタレントとしてTV番組「プレバト」で俳句の才能を発揮しています。

寅次郎の宮崎県訪問は2003年2月「第5回ひむかの国みやざきツアーマーチ」の参加です。前日は観光付きのツアーで神話と伝説の国・南国宮崎の一足早い春を楽しみました。まずは青島(写真下左)に行き、ピロー樹などの亜熱帯植物を見学、海彦・山彦の伝説も勉強しました。又、海岸にある国の天然記念物に指定された波状岩(鬼の洗濯板)(写真下右)を近くで眺めました。



海岸から上がり、日南海岸のビュースポット堀切峠(写真下左右)では雄大な海と鬼の洗濯板を見下ろし、メキシカンムードのサボテン園で「うちわサボテンのステーキ」を初体験しました。



神武天皇の父を祀った鶴戸神宮近くで、買ったきんかん(当地ではたまたまと言う)は大きく甘く、ビタミンたっぷりでした。



若い娘さんの「たまたま、いかがですか！」に思わず「ドキッ！」とした寅次郎です。明るく賑やかなバスガイドさんとの楽しい宮崎観光の旅でした。

大会第一日目は青春ステージ 海彦・山彦コースで青島の旧宮崎国民宿舎がスタート・ゴールです。巨人軍のキャンプ地のある総合運動公園を通り過ぎましたが、早朝なので練習風景は見られず。チェックポイントで出された美味しいミニトマトをほおぼり、山に上りました。30km初挑戦の三人組お嬢さんと頂上まで同行しました。頂上の梅の里「好隣梅」ではお汁粉サービスあり。その後は一気に日南海岸まで下り、堀切峠下の鬼の洗濯板の海岸線を一路ゴールへ。ゴールの飲み物サービスには焼酎のワンカップがあるのはいかにも九州らしいです。帰りの宮崎駅までの電車では前に座った行商姿の日南市へ帰るおば〜さんとの会話が弾み、寅さんのようで地方のウォーク大会ならではの光景です。夕食は外に出て、地元の女子高生から聞いた「やっば 地鶏でしょう！」のひと言で宮崎地鶏に舌鼓。



第二日目は宮崎ステージ リゾートパノラマコースです。宮崎の気温は16度、東京は6度とか。ホテル近くの世界最大級のプラネタリウムと高さ40mのH-1ロケットのある宮崎科学技術館隣の中央公園がスタート・ゴールです。



宮崎市内を流れる大淀川、川端康成は川面に映える夕日に魅せられ、小説「たまゆら」を執筆したとのこと。「たまゆら」は1965年放送のNHK連続テレビ小説の第5作です。このドラマの影響で宮崎の観光ブーム・新婚旅行が最高潮になりました。

初代の天皇 神武天皇が祭神で深い緑に囲まれた「宮崎神宮」を通り、国際級ビックリゾート「シーガイア」(写真右)へ向かいました。不景気の波を受け、ゴルフ場以外はひっそりとしていました。太陽と緑豊かな自然と神話ロマンにも触れた出会い・ふれあい・発見の多いウォークでした。



映画の寅さんは1992年12月公開の第45作「男はつらいよ 寅次郎の青春」で日南市油津を訪れています。昼食のお店で知り合った理髪店の蝶子（風吹ジュン）に昼食をおごり、文無しに。蝶子の誘いで散髪をしてもらおうと、外は大雨、ひと時の雨宿りが長居滞在となります。蝶子は女盛りの独り身、すっかり髪結いの亭主気取りの寅さんです。寅さんの甥の満男のガールフレンドの泉（後藤久美子）は高校時代の親友の結婚式で宮崎に来て、お城見物で蝶子と寅さんとの二人連れに鉢合わせ、寅さん大あわてで転び、足を負傷。泉は柴又の満男に連絡、泉に会いたい満男は宮崎へ。空港に迎えに来た泉は若者が運転のスポーツカーに同乗して登場。若者は船乗りで帰省中の蝶子の弟ですが、勘違いの満男、すっかりしょげ込み、「来るんじゃないかと」と、ふてくされます。でも弟には許嫁がいるとわかり、態度を一変させるのは寅さん、そっくりで可笑しいです。



寅さん、満男に女の気持ち分からない「愛しているのならば態度で示せ」と指導。蝶子の気持ち分からないのは寅さんも同じです。そろそろ柴又に帰ると言い出し、蝶子「なんのために寅さんを引きとめたのか」と怒り出します。泉、名古屋でクラブママの母親（父親とは別居中）が手術することになり、東京で就職したレコード店をやめます。名古屋へ帰る東京駅新幹線ホームで態度で示したのは、泉の方でした。これが二人が交わした初の口づけです。

寅さん、旅先で「蝶子は昔、散髪に来て求婚された人と再会、結婚した」と聞いて寅さんの恋は幕。

寅さんと蝶子が出合った日南市油津（あぶらつ）（写真右）は「遣唐使時代から日本と中国大陸をつなぐ貿易の中継地、昭和に入りマグロ水揚げ地として賑わい、太平洋戦争の特攻兵器「回天」が配備された地、宮崎港の整備が進み、港としての役割は失ってしまった」と学びました。



宮崎県は長い海岸線を持っており、聖火は国道10号線を北上します。日向市に到着したら、次の宮崎県延岡市までのコースを紹介します。

途中経過は次の「寅さん歩」の中でお知らせします。

今回は 官公庁の食堂めぐり-3 です。

平野 寅次郎 拜